



山田恭平先生に聞くと2



山田 恭平(やまだ・きょうへい)
北海道千歳リハビリテーション大学教授
/作業療法士・博士(作業療法学)

質問3 大学では、「地域貢献」の一環として高齢者の安全運転を医学的に支援する研究と実践に取り組まれています。その重要性や具体的実践例をお聞かせください。

当大学は「地域貢献」を重視し、特に地域住民の予防事業に力を入れていますが、私自身も北海道作業療法士会地域部連転と地域移動支援推進課の理事を務め、特に高齢者の運転支援の分野に関わっています。

【高齢ドライバー支援の重要性】

交通網が未発達な地域では、自動車運転は高齢者の生活維持に必須の手段です。運転中止は外出機会の減少、健康や生活満足度の低下につながります。多くの高齢ドライバーは自身の運転能力を過大評価しがちで、この正しい自己認識を

プロゲラムは以下の3部構成です。

1. 運転ミニ講話・「高齢者免許更新制度」や「ペダルの踏み間違い事故」など、運転判断に必要な情報を提供します。
2. 運転寿命延伸トレーニング・身体機能(眼球運動など)や認知機能(視覚探索など)の訓練を行います。
3. グループワーク・「車がない。どうする?」「自分の運転性格って?」といったテーマで話し合い、運転能力や移動手段を見つめ直します。

この事業は、21年から25まで30回以上開催され、延べ500人以上が参加しま

した。参加者数の増加、86・8%の高い満足度、73・6%の生活や運転行動の変化(安全運転意識向上、免許返納検討など)につながっています。

【研究と実践】

私たちは、このような地域実践に科学的な研究も取り入れています。現在、文部科学省科学研究費の助成を受け、高齢ドライバーを支援するためのプログラムを開発を進めています。本年度からは、同じ市内の公立千歳科学技術大学と連携し共同研究を始めたところ

です。作業療法士は、「地域で活躍する専門家」として、多角的な視点から支援を行っています。

質問4 医療系大学への進学や、将来、医療系の仕事に就きたいと考えている高校生にメッセージをお願いします。

作業療法士は、「生活」「活動」のスペシャリストとして、人々の人生に深く関わり、その人らしい生活を取り戻すお手伝いができる、とてもやりがいのある仕事です。病氣や障がいによって「諦めていたことができるようになった」という対象者の方の笑顔や、「ありがとう」という言葉は、

何物にも代え難い喜びです。北海道千歳リハビリテーション大学は、そんな作業療法士を目指す皆さんにとって、「プラスにできる人になる。」という理念のもと、最高の学びの環境を提供しています。

千歳リハには、「安心」し、研究、教育、地域での活動の全てにおいて、「地域に根ざし、未来を創造する作業療法士の育成と社会貢献」を追求し続けることです。

【講義と学生との関わりについて】

学生の皆さんには、知識や技術だけでなく、「考える力」と「人間性」を育てることを重視しています。講義では最新の研究成果や地域での実践経験を取り入れて生活できる「社会の実現に向けて貢献し続けます。



未来を拓く医療人をめざして

北海道千歳リハビリテーション大学

Hokkaido Chitose College of Rehabilitation

募集学科・定員

学部・学科	専攻	入学定員
健康科学部 リハビリテーション学科	理学療法学専攻	80名
	作業療法学専攻	30名

初年度学費

入学金	授業料	教育充実費
30万円	130万円	5万円
合 計 165万円		

取得学位

学士(理学療法学)
学士(作業療法学)

〒066-0055 千歳市里美2丁目10番
☎(0123)28-5331 <https://www.chitose-reha.ac.jp/>

して、私の今後の抱負は、研究、教育、地域での活動の全てに通じ、個々の学生が目標達成できるよう細かにサポートを続けます。

【地域での活動について】

「地域に開かれた大学」として、地域の方々との連携を一層強化し、千歳市で培った知見を北海道全体に広げていきます。知識と技術の共有、新たな実践的取り組みの探索を継続し、地域の人々が「自分らしく、安心して生活できる」社会の実現に向けて貢献し続けます。